

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスいっぽいっぽ宮下		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 12日		2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2026年 1月 12日		2026年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの特性や発達段階を丁寧に理解し、それに応じた個性の高い支援を実施できている点である。日々の関わりや保護者からの情報をもとに、「できた」を積み重ねる支援が実践されており、成長実感につながっている。	子どもが見通しを持って活動できるよう、環境の構造化や視覚的に分かりやすい配置を意識し、活動スペースと生活スペースを分けるなどの工夫を行っている。	現在実施している支援内容や取組について、活動のねらいや職員配置なども含めて分かりやすく発信し、保護者の理解と安心感をさらに高めていく。
2	活動プログラムが固定化されないよう工夫されており、生活面・社会性・運動面など多角的な視点からバランスよく構成されている。子どもの興味関心や季節に応じた活動により、楽しみながら参加できる環境が整っている。	「できた」を積み重ねることを重視し、子どもの発達段階に応じて難易度を調整しながら、成功体験を増やす支援を行っている。段階的な関わりを意識し、子どもの力を引き出す支援を行っている。	家族支援について、案内方法や実施方法を見直し、参加しやすい形を検討することで、より多くの保護者にとって有意義な機会となるよう充実を図る。
3	子どもおよび保護者との信頼関係が構築されており、日々の連絡帳や送迎時のやりとり、LINE等を通じた情報共有により、安心して通所できる環境が整っている。	保護者との連携を大切に、日々の様子を具体的に伝えるとともに、家庭での様子も共有してもらいながら、家庭と事業所が一体となった支援を行っている。	非常時対応や各種マニュアル、訓練の実施状況について、定期的に発信・周知を行い、安全面への理解と安心感の向上につなげていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	実施している取組や支援内容について、十分に保護者へ伝わっていない部分があり、「分からない」という意見が見られる点が課題である。	情報発信が個別対応や都度対応に偏っており、全体に向けた体系的な発信が不足していることが要因と考えられる。	情報発信を仕組み化し、活動内容だけでなくその目的や子どもの変化を分かりやすく伝える取組を定期的に行う。
2	家族支援や保護者同士の交流の機会について、実施しているものの認知にばらつきがあり、利用状況に差がある。	支援の内容や意図が専門的であり、保護者にとって分かりやすい形で十分に伝えきれていないことが要因である。	家族支援について、オンラインの活用や時間帯の工夫などにより、より多くの保護者が参加しやすい形を整えていく。
3	非常時対応や避難訓練についても、実施しているにも関わらず認識されていない部分があり、情報提供が十分とは言えない。	保護者の生活状況や参加しやすさへの配慮が十分でなく、情報提供の方法や機会に偏りが生じている可能性がある。	非常時対応や安全対策について、訓練の実施報告やマニュアルの再説明を定期的に行い、安心して利用できる環境づくりを強化する。